

がん体験者が「病い・命・生きる」を伝える

がんの語り手を派遣します

日本人の2人に1人が「がん」にかかると言われていた時代、多くの人にがんについて知ってもらいたい、がんを克服する日が一日も早く訪れるよう、そしてがんになっても希望をもてる社会を作ることを目指して、NPO法人がんサポーターサポート北海道の「がんの語り手」は活動しています。授業、イベント、子育てサロン、研修会や勉強会、セミナーなど、企業、団体、グループ、各種学校などで、研修を受けたがん体験者が講話や講義、講演をいたします。お気軽にお問い合わせください。



●企業、団体、大学、医療機関などへの派遣

がんという病いを患者がどのように体験しているのか、診断・治療・術後の暮らしを含む「Cancer Journey」の中で何が起こりどう感じたのか、がんになるとどんな困難があるのか、就労や生活、お金などの問題、家族や周囲の人々との関係、がん検診の重要性について学べます。体験の語りを通して、「がん」とはどのような病気か、がんという病いが私たちにたらすものについて知ることができます。

また、医療関係者、医療系の学生・生徒は、がんという病いを患者がどのように体験しているのか、患者の直面する困難、患者が医療関係者に望むことなどについて学べます。病院では見られないがん患者・体験者の姿に接することができます。

語り手とは… NPO 法人がんサポーターサポート北海道による「がんの語り手養成講座」を修了したがん患者・体験者、家族・遺族です。自らのがん体験を勇気をもって伝えることで、誰かの役に立ちたいという思いを持っています。

語りの内容(例)

検診、自覚症状、診断、病院選び、治療と副作用や後遺症、家族、周囲の人々、いのち・生きること、仕事や就労、お金、保険、生活の変化、ショックや気持ちの落ち込み、新たな気づき、学び、希望、挑戦

●生きる授業

中学・高校を対象としたがん患者・体験者による講話です。研修を修了した「がんの語り手」がお話します。がんという病いを知り、生きることやいのちについて考えることができます(小学校についても準備を進めています)。

生きることやいのちについて考える

- 2人に1人がかかる「がん」という病いについて知る
- 人とのつながり、大切な人について考える
- 困難を乗り越えることやチャレンジについて考える

派遣・依頼実績… 天塩高校(北海道教育庁からの依頼)、北海道対がん協会「がん予防学級」、北海道新聞、KKR 斗南病院、エーザイ(株)道民のための乳がんフォーラム、北海道大学、アフラック札幌総合支社、アフラック大阪総合支社、東京海上日動あんしん生命(株)、北海道勤労者安全衛生センター ほか

**「再発の不安も
夢かなえ克服」**
札幌で患者が講演
道民公開講座「道民のた
めの乳がんフォーラム」
(道、北海道対がん協会)
エーザイ主催)が15日、札
幌市中央区の共済ホールで
開かれ、乳がん患者の佐々
木初美さん(56)札幌市南
区IIが「乳がんになったか
らこそかなえられた夢」と
題して講演した。

佐々木さんはNPO法人
がんサポーターサポート北海道
の「がんの語り手」の20
08年11月、年1回の「がん
検診で乳がんが見つかり、
抗がん剤治療や手術を受け
たが、今年4月に首のリン
パ節への転移が発覚した。
佐々木さんは「再発、転
移の不安は消せないが、乗
り越えられたのは、がんが
自分を発見するチャンスと



乳がんフォーラムで講演するがん患者の佐々木初美さん

くれたから」と強調。ラジ
オ出演や学校講師など子供
時代の夢をかなえたこと
に触れ「がんになっても
つてもかなう。体は元氣し
やなくても、心は元氣で生
きたい」と語った。
(仁科裕重)

2015年11月16日(月)北海道新聞 朝刊

ご希望のテーマに応じて語り手の選定、話の内容や予算など、ご相談させていただきます。お気軽にご相談、お問い合わせください



NPO法人 がんサポーターサポート北海道

〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2-3-1 北星学園大学大島研究室内

がんサポートセンター ラ・プラス ☎070-5286-2731 (平日、午前10時～午後4時/担当:田辺)

☒ info@cancersupport.jp (担当 田辺)